

INFORMATION *Circular*

THE JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

■年頭のご挨拶	岡田益吉	1
■幹事長退任にあたって	浅島 誠	3
■事務局をお引き受けするに当たって	八杉貞雄	5
■DGDのカラー印刷費が安くなりました	嶋田 拓	6
■日本発生生物学会運営委員会議事録		7
■庶務報告		10
■公益信託について		11
■第10回 加藤記念海外派遣助成について		12
■平成10年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の 候補者推薦要領の概要について		13
■井上科学振興財団 井上学術賞、研究奨励賞募集		14
■井上科学振興財団 井上フェローの募集		15
■チバ・ガイギー科学振興財団 研究集会助成		16
■チバ・ガイギー科学振興財団 海外学会出席助成		18
■本会関係助成金一覧		20
■国際シンポジウムのお知らせ		22
■第71回日本生化学会大会のご案内		23
■平成10年度日本生化学会春季シンポジウムのお知らせ		25
■教官公募		27
■会員異動		28
■賛助会員		32
■賛助会員への入会のお願い		33
■入会案内		34
■広告掲載のお願い		36

NO.89

APRIL 1998

日本発生生物学会

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

東京都立大学理学系研究科生物科学

会 長：〒 300 茨城県土浦市湖北 2 丁目 5 - 10
-0032 岡田益吉 (Tel: 0298-22-7348, Fax 兼用
e-mail: flyokada @ biol. tsukuba. ac. jp
drok7 @ da2. so-net. or. jp)

D G D 編集主幹：〒 739 東広島市鏡山 1 - 3 - 1
-0046 広島大学理学部遺伝子科学専攻
嶋田 拓 (Tel: 0824-24-7446)
(Fax: 0824-24-7498)
(e-mail: dgdedit @ ipc. hiroshima-u. ac. jp)

事 務 局：〒 192 東京都八王子市南大沢 1 - 1
-0397 東京都立大学大学院理学系研究科生物科学専攻
Fax: 0426-77-2559 (生物科学事務)
e-mail: jsdb @ comp. metro-u. ac. jp
(幹 事 長) 八杉貞雄 (Tel: 0426-77-2572)
(庶務幹事) 福田公子 (Tel: 0426-77-2572)
(会計幹事) 西駕秀俊 (Tel: 0426-77-2573)

学会センター：〒 113 東京都文京区本駒込 5 - 16 - 9
-8622 財団法人 学会事務センター
日本発生生物学会担当係 (Tel: 03-5814-5810)

日本発生生物学会への入退会、住所・所属変更、会費納入、および出版物（インフォメーション・サーキュラーなど）の郵送については、上記の日本学会事務センターに書面でお問い合わせ下さい。なお D G D につきましては直接、ブラックウェルサイエンス社にお願いいたします (Fax: +61-39349-3016)。

サーキュラーへの投稿募集

日本発生生物学会サーキュラーは会員の皆様の情報誌として年 3 回発刊されます。学会に対する提言、研究雑感、実験手法、学会見聞記、関連学会案内、書評等どのような内容でも結構ですので、是非事務局にお寄せ下さい。

年頭のご挨拶

会長 岡田 益吉

正月気分も実感しないうちに、早くも立春となつてしまいました（年をとると時間の進みが早くなるとか、余り歓迎しませんが・・・）。皆様インフルエンザにも負けず、活発な御研究で人類の知的財産を増やすことに貢献しておられることと存じます。余すところ私の会長任期も1年弱となりましたが、日本発生生物学会も、DGDは少しずつではありますが、次第にインパクト・ファクターが伸び、運営も順調でございます。運営委員、編集主幹、幹事長、幹事の皆様の献身的なご努力に心から御礼申し上げます。本年より、幹事長が浅島誠先生より、八杉貞雄先生に代わり、幹事も松田良一先生、福井彰雅先生から、福田公子先生、西駕秀俊先生のお2人へとバトンタッチされました。前幹事長、幹事の先生方のお働きに対して衷心より感謝いたしますと共に、新たに事務局をお引受け下さった皆様は何卒よろしくお願い申し上げます。さて、研究活動は本来は各個人がその哲学に従って行うべきであることは当然であります。多額の研究経費を必要とし、それを何らかの組織からの補助・援助に依存する場合には、自分の行いたい研究の重要性を多くの人に理解し、同意して貰うことが必要となるのもまた止むを得ないことと思います。その意味では、自分の興味のある分野の研究を行政が重要と考え、重点的に推進する方針を立ててくれると、説得に要するエネルギーが比較的少なくて済みます。現在、発生生物学は脳の研究と共に追い風を受けている分野であるように思います。例えば、内閣総理大臣を議長とする科学技術会議における、昨年7月28日の『諮問「ライフサイエンスに関する研究開発基本計画について」に対する答申』においても、今後10年間を見通して国として取り組むべき研究開発領域の一つとして「発生」をあげているのは大変心強い次第です（科学技術会議の中の部会、分科会には何人かの会員が参加しておられます）。このような発生学に対する追い風を感じるのは会長として大変うれしいことであり、改めて皆様方の研究の更なる進展を期待する次第です。さて、研究活動に必要なもう一つの要素は、研究者間の批判と情報交換でありましょう。毎年開かれている日本発生生物学会の大会はそのために大いに役立っているものと確信いたします。本年度の大会は、熊本大学の主催で開かれます。沢山の会員が参加されるよう期待します。

研究者相互の批判、情報交換は、特に科学の世界では国際的であることが大切です。昨年アメリカ合衆国スノーバードで開かれた、国際発生生物学会（ISDB）の大会に日本からも多数の方が参加されたのは大変嬉しいことでありました。その際の運営委員会（Board Meeting）、さらに総会で、2001年に予定される次の大会をアジア地域で開くことが決定されました。候補としては日本、韓国、オーストラリアの3カ国があげられましたが、その後ゲーリング ISDB 会長より、日本発生生物学会が主催して欲しいという正式の要請がとどきました。これを受けて、1月24日に開かれた運営委員会で審議をお願いいたしましたところ、日本発生生物学会が主催して

2001年に国際発生生物学会を開催することを受諾することが決定されました。さらにその準備のために、準備委員会、支援委員会（仮称：準備委員長の要請にしたがって、必要な支援活動を行う）を作ることが了承され、準備委員長として竹市雅俊先生が選出されました。積極的に議論して下さった運営委員の先生方、また貴重な意見を述べて下さったその他の先生方に心から御礼申し上げます。ISDBは世界各国の発生生物学会を統合する大きな組織であり、発生生物学の分野では最も多くの研究者が関与する学会であることはご存じの通りです。この国際学会が日本で開かれることは発生生物学の研究者には大変に良い刺激となり、研究活動を一層加速するのに役立つと思います。ぜひとも多くの方が参加され、研究成果を発表して、各国の研究者と交流されるようお願いいたします。現在の所、国際発生生物学会大会を日本発生生物学会大会の拡大として開く。したがって、2001年には国内の大会は開かない。国際会議では出来る限り、学術上の活動だけを行う。この2つだけが、一応の方針として確認されております。これまでの国内の大会に発表するのと同じ気持ちで、ぜひ国際発生生物学会で皆様の研究を発表して下さい。大会運営の具体的な詳細については、これから準備委員会で討議、決定されますので、会員の皆様方には出来る限り速やかにお知らせしたいと思っております。準備に当たり、また実際の大会の運営に当たり多くの方に御協力をお願い申しあげることあるかと存じます。その際には何卒お力をお貸し下さい。さらに、大会の成功は、国内外より参加される皆様の活躍にかかっております。どうぞ一般の会員の方達も積極的に参加されますよう、今一度お願い申しあげまして、年頭のご挨拶と致します。

幹事長退任にあたって

東京大学大学院総合文化研究科生命系

浅島 誠

1996年1月～1997年12月までの2年間、日本発生生物学会の事務局の運営に携わって、退任するにあたり、まず岡田益吉会長はじめ、運営委員の諸先生方、そして会員の皆様方の御尽力と御協力に深く感謝いたします。

私の前任の、長浜名幹事長は、事務上でも運営面でもよくまとめられて来られたので、その後任としては、いささかに私は荷が重かったのですが、なんとか無事に過ごすことができましたのも皆様方のお陰だと思っています。次期幹事長の八杉貞雄先生に事務局を引き継いでもらうことは、御迷惑をかけることになってしまいますが、八杉先生は以前学会事務局の経験もありますので、私としては安心して引き継ぎを行うことができました。すでに1月上旬には、前任者から預かった段ボール箱や大事な印鑑等の引き継ぎは完了し、あとは学会事務センターを含めた一部会計処理が終われば事務の引き継ぎは終了ということになります。

今回、事務局を行ってみて、比較的スムーズにいった理由の一つには、松田庶務幹事が「サーキュラー」の編集をよくやってくれたことや、会員からの学会費の未納者の請求、それに積年のいろいろな累積の会計不明事項を大幅に改善してくれたことにあります。10年以上も会費未納者が何人もたまっていたままで引き継ぎを行い、その連絡もうまくいかなかったりすることが多かったのですが、事務局の方で総会に計り、3年以上の未納者は連絡と催促はするが、それでも音信不通の場合は自動退会とし、事務の簡略化を行いました。また賛助会員や広告代も長年据え置きで、印刷しても学会に何ら利益をもたらさないことがわかったので、これらを値上げして、学会に実質的に利益になるように実情に合わせませした。このような努力をして下さった松田庶務幹事に感謝したいと思います。また、D.G.D.の編集に関しては星前主幹、嶋田現主幹の御尽力と御努力、それに江口前会長と岡田益吉現会長の英断によるBlackwell

Science社での編集が軌道にのって、学会運営もスムーズに行くようになりました。事務局としてはある程度のお金がないと、学会員約1300名以上もいるので、いろいろな依頼に対応していくのに身動きができないのが実情ですが、私の在任中はそのような苦勞をあまりせずに済みました。これは長年の先輩、諸兄姉の本学会への大いなる英知と御努力のお陰だと思っています。八杉新幹事長に事務局をお願いする時、発生生物学会の事務局としてはあまりお金のことで心配するような状態でないならばという条件が付いていたので、それは現在のところクリアしていると思っています。これからは発生生物学会も、できるだけ学会事務センターなどに業務を委託して、学会事務局の業務を減らしていく方向が良いのではないかとと思っています。

発生生物学会は大会などにでてみると比較的若い人が非常に活発で元気がよいのは将来的には大いに発展の見込まれる学会だと思っています。そのような人がこれから「D.G.D.」や「サーキュラー」にお仕事や意見をどんどん述べて、この学会を盛り立てていただきたいと思います。この2年の間に、京都での大会（大会委員長：佐藤矩行先生）、筑波での大会（大会委員長：平林民雄先生）では、学会事務局にもいろいろと御配慮と御援助をいただきましたことにお礼を申し上げます。

これからの日本発生生物学会は、日本の生命科学の中で大きな役割を担っていくものと思っています。日本学術会議では、星元紀会員が発生生物学の中から推薦されています。そして、前回（1998年1月24日）の運営委員会では2001年の国際発生生物学会を日本で開催することも決めました。これからこの学会がアカデミックな学会として更に発展していくことを期待しています。

2年間という短い間でしたが、会員の方々にもいろいろと御迷惑や御不自由を多くおかけしたと思いますが、何とか無事に終えることができたのも、岡田会長はじめ、多くの方々の支えのお陰と感謝しています。

事務局をお引き受けするに当たって

幹事長 八杉 貞雄

平成10年1月1日から事務局が東京都立大学理学部生物学教室の発生プログラム研究室に移りました。会計を西駕秀俊さん、庶務を福田公子さんにお願いしています。これまで東京大学の浅島先生を中心にしっかりした事務体制がとられてきたわけですが、私どももなんとか大過なく勤めを果たしたいと考えています。

学会の事務局というところは、いうまでもなく、まったくの勤労奉仕でなされるもので、しかも多くの学会会員はその存在すら普段は意識しないものです。それでいて、なかあれば当然「事務局にきいてみよう」ということになります。大分前になりますが、東京大学の水野丈夫幹事長のもとで庶務を勤めたことがあります、実に多くのそれこそ雑用と呼ばれるものが降り注いできました。

学会の事務局があまり表に出ないようになることが、むしろ学会のためにはいいことなのでしょう。幸いにみなさまのご協力を得て、穏やかに日々がすぎ、次の事務局に引継ぐことができると考えています。

学会はこのところ経済的にも、学術的にも深刻な問題を抱えることなく活動しています。それは、実はこれまでの会長、事務局、DGD編集主幹、編集幹事など多くの方の大変なご努力があったればこそです。特に現在のような状況の中で、経済的にあまり苦しまずに事務局をお引き受けできたのは、まことに幸いなことでした。私たちがこれから学会の活動に新しい要素を付加することができるかどうかは若干怪しいのですが、せめて活動にブレーキをかけないように努力する所存です。学会の運営に関し、会員の方々からのご意見をお寄せいただければと存じます。

学会は、3年後の国際発生生物学会を主催することになり、これは従来の活動とはまた異なる緊張をもたらすこととなります。事務局としては、実際に国際学会を運営する組織と学会との関係を緊密に保ち、齟齬をきたさないよう努めて参ります。この点に関しても、みなさまのご支援を頂きたいと思います。

最後をお願いを一つ。会員業務に関することは、是非直接学会事務センターにご連絡下さい。おそらくこのことだけでも徹底されれば、私どもの労力がかなり減少すると思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

DGDのカラー印刷費が安くなりました

編集主幹 嶋 田 拓

DGDのカラー印刷費は従来、全額著者負担システムでした。その結果、最初のカラー頁は100,000円、次頁以降は頁当たり24,000円となり、論文にカラー写真を多用せざるを得ない現在では著者の負担が著しく大きくなっていました。この状況を打開するため学会とBlackwell社との間で交渉が始まっておりましたが、岡田会長、浅島幹事長、八杉次期（当時）幹事長らのご努力で、昨年暮れにBlackwell社が40%、学会が30%を分担することによって、著者の負担を軽減できることになりました。今後著者に請求される新しいカラー頁印刷費は、最初の1頁が25,200円、次頁以降は頁当たり16,000円となります。ただし、学会の負担があまり大きくなると予算を圧迫しますので、必ずしもカラーにする必要がないと編集側で判断いたしました場合は、著者にお尋ねした上でモノクロームにさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

星前主幹のご努力のお陰で、昨年度のDGDのimpact factor はかなり上昇いたしました。impact factor の意味についてはいろいろ議論もあろうかと思いますが、数字が公表されるからには高い方がよいわけで、及ばずながらさらに高める努力をしたいと思います。会員の皆さんがふるってご投稿下さるのをお待ちしております。

運営委員会議事録

平成10年1月24日 14:00～17:00

場所：東京大学駒場キャンパス16号館第一会議室

出席者：岡田益吉会長、浅島誠（前幹事長兼運営委員）、江口吾朗、片桐千明、黒岩厚、近藤寿人、嶋田拓、竹市雅俊、団まりな、長浜嘉孝、仲村春和、西田宏記、星元紀（日本学術会議会員）、安部眞一（次期大会委員長）、福井彰雅（前会計幹事）、八杉貞雄（新幹事長）、西駕秀俊（新会計幹事）、福田公子（新庶務幹事）

会長挨拶のあと、浅島前幹事長から事務局交代についての説明があり、八杉新幹事長、西駕会計幹事、福田庶務幹事が紹介された。

報告事項

庶務報告（浅島）

- ・現会員数（平成10年1月19日現在）

国内	正会員	977名
	学生会員	302名
	賛助会員	11名
国外	正会員	50名

総会員数 1,340名

会計関係（福井）

- ・1997年度決算が示された。
収入の部 大会開催校（筑波大学）からの寄付があった。
支出の部 会計に余裕があるため、600万円を特別会計に回した。
- ・1998年度予算案が示された。
支出の部 事務局経費を多くし、アルバイトを雇えるようにした。

DGD関係（嶋田）

- ・前年度の実績
投稿数 112編、うち海外からは36編（32%）
採択率 66%
impact factor 1.35で上昇中。
- ・現在のところ刊行は順調。昨年のはじめの頃の号が遅れた原因は、発送会社が航空便ではなく船便にしたせいだが、その後Blackwell社が発送会社を変え、そのようなミスはなくなっている。
- ・著者の負担を減らし、投稿数を増やす試みとして、カラーページ代の軽減案が示された。内容は現在のカラーページ代最初の1ページ84,000円のうち、

Blackwell社が、40%、学会が30%、著者が30%負担するものである。2 ページ目以降はこれまでと同様。

- ・ DGDを購入している図書館数は、国内、海外共に横ばいである。
- ・ 現在、DGDの別刷代支払請求は、通常の別刷代とカラーページ代の 2 通が来ている。これを 1 通にできるようにBlackwell社に繰り返し要求する。さしあたって大学の経理担当者には、2 通でも処理してもらうことを依頼した。文部省にも依頼する予定。

第3 1 回日本発生生物学会大会のお知らせ（前回からの変更点）（安部）

- ・ 学生の参加費、懇親会費を1000円安くした。
- ・ 申込法が定額小為替に変わった。
- ・ 希望発表分野を1つ選択し、プログラム作成に役立てることにした。
- ・ シンポジウムおよびワークショップを計画している。
- ・ ホームページを開設した。

第3 2 回日本発生生物学会大会のお知らせ（団）

- ・ 日時：1999年5月28、29、20日
- ・ 場所：甲南大学
- ・ 大会準備委員長：大阪市立大学 団まりな氏

10 年目の反省について（浅島）

- ・ 前号のサーキュラーにいろいろな先生の意見を載せたところ、好評だった。
- ・ 次号のサーキュラーにも別の先生の意見を載せる予定。

日本学術会議報告（星）

- ・ サイエンスミュージアムの問題が話し合われた。
- ・ ガイアリスト21研究会が正式に決定した。

名簿編集（八杉）

- ・ 選挙の年のため新たに名簿を作る。その際、国際発生生物学会等に有用と思われるので和文とともに英文表記を載せる予定。

審議事項

決算および予算

- ・ 1997年度決算案および1998年度予算案が承認された。
- ・ 特別会計が承認された。
- ・ DGDカラーページ代の学会一部負担の承認にともなってDGDカラーページ代として80万円を予算に組み込むことが承認された。

DGD関係

- ・ DGDカラーページ代の学会一部負担が承認された。そのことを、サーキュラーで学会員に広く知らせるとともに、DGDにも掲載することが決定した。
- ・ DGDのon line化が検討され、Blackwell社と協議することが決定した。

国際発生生物学会 2001 年大会

- ・ 岡田会長から 2001 年国際発生生物学会大会の現状と経過について報告があり、2001 年大会開催を日本発生生物学会で引き受けることを承認した。

国際発生生物学会

- ・ 国際発生生物学会のboard memberを選出する準備として日本発生生物学会の会則の付則、申し合わせ事項に、
4、 国際発生生物学会のboard memberは運営委員会において選出する。
という項を付け加えることが提案され、次回の総会で提案されることが決定した。

選挙管理委員

選挙管理委員として三菱化学生命科学研究所の北村氏（委員長）、竹内氏、橋本氏が提案され、承認された。

会計監査委員

会計監査委員として駒沢大学の西山氏が提案され、承認された。

庶務報告

会員名簿の作成と英語表記について

本年度は本学会の会長、および運営委員の選挙がありますので会員名簿を新たに作成いたします。前回の名簿作成のさいに松田先生のご努力のおかげでE-mail番号が載りましたが、今回はこれからの本学会の国際化にむけて、かねてから要望の多かった会員氏名および所属の英語表記も加えて載せることとなりました。お手元に既に届いている名簿作成用往復葉書の記入欄にそれぞれの英語表記を忘れずに記入してください。なお、締切は5月12日です。皆様のご協力をお願いいたします。

海外会員の皆様へ

3年以上会費未納の方は今回に限り、会費納入のお願いをもう一度行いますが、それでも未納の方は自動的に退会となります。会費納入は簡単にできますので、皆様のご協力をお願いいたします。

第31回発生生物学会大会参加者の皆様へ

発生生物学会では発表者は会員に限っております。発表の申し込みをして、まだ入会手続きをしていない方はできるだけ早く入会してください。また、指導教員の方は大学院生の方への指導をお願いいたします。

公益信託 成茂動物科学振興基金

平成10年度研究助成

1. 助成の対象 基礎的な動物科学の研究。
2. 助成の内容 上記研究に対し、助成金を交付する。
助成金額： 約300万円
1件につき100万円以下とする。
助成金は、備品、消耗品、謝礼、国内旅費などのほか、
国外旅費にも使用することができる。
3. 応募の方法 所定の研究助成申請用紙に必要事項を記入して、
下記事務局に直接申し込む。
申込〆切： 平成10年7月17日（金）必着。
申請用紙は、返信用封筒（B5版）を同封の上、
下記宛請求する。

公益信託 成茂動物科学振興基金事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-5

三菱信託銀行本店営業部

公益信託推進室 担当 小林

(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団

第10回加藤記念海外派遣助成について

〔第10回加藤記念海外派遣助成募集要項〕

1. 助成対象者：平成10年 4月 1日から平成11年 3月31日の期間に海外で開催される
バイオサイエンス分野の学会、シンポジウム等で研究発表を行う研究者
2. 申込資格：応募締切日に35才以下の方（医学系の大学卒業者は37才以下の方）
3. 助成内容：所要経費の一部を援助する
4. 助成金額：総額 740万円
5. 援助件数：30件程度（前期；21件程度、後期；9件程度）
6. 応募方法：当財団所定の申請用紙に必要事項を記入の上、当財団に直接申し込む
7. 応募締切：①前期；4/1～9/30の期間に発表される方は、平成10年 5月31日
②後期；10/1 ～翌年3/31の期間に発表される方は、平成10年 8月31日
8. 審査方法：当財団の選考委員による審査の上、理事長および評議員会議長の承認
を得て決定
9. 申請書の請求先および送付先：下記あて「はがき」または「ファクシミリ」にて
ご請求ください

連絡先：（財）加藤記念バイオサイエンス研究振興財団

住所：〒194-8533 東京都町田市旭町 3-6-6

☎：0427-25-2576

FAX：0427-22-8614

担当：吉柳 信子

平成10年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の 候補者推薦要領の概要について

記

I. 東レ科学技術賞（概要）

1. 候補者の対象……………貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの
 - (1) 学術上の業績が顕著なもの
 - (2) 学術上重要な発見をしたもの
 - (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
 - (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの
2. 科学技術賞……………2件前後。1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円
3. 候補者推薦件数……………1学協会から2件以内
4. 推薦締切期日……………平成10年10月9日（金）弊会必着

II. 東レ科学技術研究助成（概要）

1. 候補者の対象……………貴学協会に関する分野で国内の研究機関において基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが多いと考えられる独創的、萌芽的研究を活動に行っている若手研究者
2. 研究助成金……………総額1億3千万円。1件3千万円程度まで10件程度。
3. 候補者推薦件数……………1学協会から2件以内
4. 推薦締切期日……………平成10年10月9日（金）弊会必着

(財)井上科学振興財団、第15回井上學術賞の候補者を募集

(財)井上科学振興財団(西川哲治理事長)は、第15回(平成10年度)井上學術賞の受賞候補者を次のとおり募集している。

1. 概要：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた50才未満の研究者に対し、學術賞(賞状及び金メダル、副賞200万円)を贈呈する。
2. 受賞件数：5件以内
3. 募集方法：指定の関係30学会、及び財団の役員・評議員等からの推薦

(財)井上科学振興財団 第15回井上研究奨励賞の候補者を募集

(財)井上科学振興財団(西川哲治理事長)は、第15回(平成10年度)井上研究奨励賞の受賞候補者を次のとおり募集している。

1. 概要：平成7～9年度の過去3年間に、理学・工学・医学・薬学・農学等の分野で博士の学位を取得した35才未満の研究者で、自然科学の基礎的研究において新しい領域を開拓する可能性のある優れた論文を提出した研究者に、賞状及び研究奨励金50万円を贈呈する。
2. 受賞件数：30件
3. 募集方法：博士論文を指導した研究者の推薦に基づき、学位を授与した大学の学長からの推薦

推薦締切日：平成10年9月20日(日)

照会先：(財)井上科学振興財団

〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町11-20

電話 03-3477-2738 F A X 03-3477-2747

(財) 井上科学振興財団 井上フェローの採用を希望する研究者を募集

(財) 井上科学振興財団(西川哲治理事長)は、第4回井上フェローの採用を希望する研究者を次のとおり募集(一般公募)している。

1. 募集の概要：基礎科学分野の新しい開拓的發展を目指す45歳未満の優秀な中堅研究者が、自身の研究計画の發展のため、自身が選定する若手研究者を井上フェローとして採用し、当該研究の推進に協力させるための助成である。平成5年度に開始した事業で、今回は第4回の募集。
井上フェローは、全体で10名、博士号取得者(35歳未満)。フェローには月額35万円の研究奨励金を支給(必要な場合は、往復国際航空運賃も支給)。平成11年度(平成11年4月1日～)に採用。期間は2年、但し、自己の研究室出身者以外から選定すること。
2. 募集資格：国公立大学の原則として大学院博士課程の教員、並びに大学共同利用機関に所属する常勤研究者。45歳未満の者。
3. 申請受付：1998年6月1日～9月20日
4. 申請用紙請求先：(財) 井上科学振興財団
〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町11-20
電話 03-3477-2738 F A X 03-3477-2747

平成10年度（1998年度）
第12回 研究集会助成候補推薦要領

〒665-8666 宝塚市美幸町10-66
財団法人チバ・ガイギー科学振興財団
(財団法人ノバルティス科学振興財団へ名称変更予定)
電 話：0797-74-2460
F A X：0797-74-2409

1. 助成対象研究集会

生物・生命科学およびそれに関連する化学の領域において、わが国で開催される研究集会に対し、運営経費の一部を助成する。研究集会はかなりの数の国外からの参加者を含む国際性豊かな集会でなければならない。ただし、参加者が1,000名を越すような大規模な研究集会および2国間の研究集会は原則として助成の対象としない。また、原則として、平成10年9月以降に開催される研究集会を対象とする。

2. 助成金額

助成金は1件50万円とし、約10件の助成を行う。

3. 推薦者

当財団の指定する学会、協会の代表者、当財団の現任ならびに前任の理事および評議員。

4. 推薦件数

1推薦者から1件に限る。

なお、当財団の理事、評議員、選考委員は候補者となれない。

5. 推薦方法

所定の用紙またはそのコピーに必要事項を記入し、当財団事務局に提出する。

6. 推薦受付期間

平成10年（1998年）4月～6月の期間とする。ただし、推薦締切り後も、助成総額が本年度の予算額（500万円）に達しない場合は、推薦の受付けを継続する。

7. 選考方法

選考委員会において選考し、理事長、副理事長、評議委員会議長の合議により決定する。

8. 採否の通知

選考終了後直ちに推薦者、被推薦者の双方に採否を通知する。

9. 助成金の交付

研究集会の開催時期の遅くとも1ヶ月前に研究集会の代表に送呈する。なお、贈呈式を平成10年3月に開催する予定である。

10. 助成金の使途

会場使用料、外国人講演者の招聘費用、抄録集の印刷費など研究集会の開催に直接必要な経費に限る。飲食費などに使用してはならない。助成金は推薦書記載の通りに使用することを原則とする。万一使途を変更する場合には、あらかじめ当財団理事長の承認を求めること。

11. 成果の報告

研究集会の成果を集会開催後2ヶ月以内に当財団に報告するものとする。報告書作成方法等については、集会開催後に当財団事務局より連絡する。研究集会のプロシーディングを刊行する場合には、財団法人チバ・ガイギー科学振興財団（英文の場合には Ciba-Geigy Foundation (Japan) for the Promotion of Science）から助成を受けた旨を明記すること。

平成10年度（1998年度）
第8回 海外学会出席助成候補者推薦要領

〒665-8666 宝塚市美幸町10-66
財団法人チバ・ガイギー科学振興財団
(財団法人ノバルティス科学振興財団へ名称変更予定)
電 話：0797-74-2460
F A X：0797-74-2409

1. 助成金の趣旨

生物・生命科学およびそれに関連する化学の領域において、海外で開催される学会（研究集会）への出席に対し、旅費・滞在費の一部を助成する。

2. 助成金額

1件当たりの助成額を20万円とし、約15件の助成を行う。

3. 選考基準等

国際性豊かで、学術的意義の大きい学会へ出席する日本人研究者または日本の原則として3年以上在住している外国人研究者に対し助成する。旅費の調達の困難な年齢の若い研究者をできるだけ優先する。学会のオーガナイザーから招聘を受けている場合は、これを優先する。なお、原則として、出発の3ヶ月前までの候補者であることが望ましい。

4. 推薦者

当財団が指定する学会、協会の代表者、当財団の現任ならびに前任の理事および評議員。

5. 推薦件数

1推薦者から1件に限る。

なお、当財団の理事、評議員、選考委員は候補者とはなれない。

6. 推薦方法

所定の用紙またはそのコピーに必要な事項を記入し、当財団事務局に提出する。オーガナイザーからの招聘状を受けている場合は、その写しを添付する。

7. 推薦受付期間

平成10年（1998年）4月～6月の期間とする。ただし、推薦締切り後も助成総額が本年度の予算額（300万円）に達しない場合は、推薦の受付を継続する。

8. 選考方法

選考委員において選考し、理事長、副理事長、評議員会議長の合議により決定する。

9. 採否の通知

選考終了後直ちに推薦者、被推薦者の双方に採否を通知する。

10. 助成金の交付

助成決定者に対し、出発の1ヶ月前までに支給する。なお、贈呈式を平成10年3月に開催する予定である。

11. 助成金の使途

助成金の使途は推薦書記載の通りとするほか、当財団の助成金交付規程に従って使用すること。万一使途を変更する場合には、あらかじめ当財団理事長の承認を求めること。

12. 成果の報告

学会より帰国後2ヶ月以内に学会出席の報告書を当財団に提出すること。報告書作成方法等については学会終了後当財団事務局より連絡する。発表した成果がその学会のプロシーディング等に印刷される場合には、財団法人チバ・ガイギー科学振興財団（英文の場合にはCiba-Geigy Foundation (Japan) for the Promotion of Science）から助成を受けた旨を明記すること。

学会の推薦を必要とする場合にはこの締切の一月前に学会内での選考のために締め切りますのでご注意ください。なお、締め切りに関しては変更のある場合がありますので、各団体へ直接ご確認ください。応募書類は各人で取得してください。

賞名	授賞団体	授賞件数	提出締切	賞金額	受賞資格
持田記念研究助成	(財)持田記念医学・薬学振興財団	42件	6月末	1件100万円	「生命科学・薬物科学・情報科学・生体工学」と医療応用の研究
持田記念留学補助	03-0058-7221 〒160 東京都新宿区四ツ谷1-7	10名	6月末	1件50万円	留学期間は1年以上
持田記念学術賞		2名	7月末	1名300万円	顕著な功績のある研究を行なっている研究者
公益信託・成茂動物科学振興基金	公益信託・成茂動物科学振興基金 03-0058-7221 (4052) 〒100-0061 東京都千代田区丸ノ内1-4-5 三菱信託銀行本店営業部法人相談室	約600万円	7月31日 必着	1件につき 100万円 程度まで	基礎的な動物科学の研究
日産学術研究助成(A)(B)	(財)日産科学振興財団 03-3546-5597 〒104-0061 東京都中央区銀座6-17-2	約10件	8月末	1件1,500万円程度	(A)研究が長期間にわたる学際的グループ研究
		約10件	8月末	1件150~300万円程度	(B)独創的な短期間の研究または本格的な研究への調査・準備的研究
日産学術奨励研究助成		約15件	8月末	1件200万円まで	若手研究者(35歳以下)の萌芽的研究
加藤記念研究者育成助成	(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 0427-25-2572 〒194-0023 町田市旭町3-6-6	3件 1学会より1名	8月中旬	360万円 1件月額 10万円x1年間	バイオサイエンス分野の基礎研究を対象とする。本年8月31日現在30歳以下の研究者で、職業をもたない(無職である)国内の大学、国公立の研究所等に在籍している者。
上原財団研究助成	(財)上原記念生命科学財団 03-3985-3500 〒171-0033 東京都豊島区高田3-25-3	約50件	9月8日	1件500万円	生命科学、とくに健康の増進、疾病の予防および治療に関する次の分野において、独創的な内容の研究に従事している日本在住の研究者。1)栄養学 2)薬学一般 3)基礎および臨床医学 4)社会医学。
島津研究開発助成	(財)島津科学技術振興財団 075-823-3240 〒604-8436 京都市中央区西/京下合町11番地	総額 1,600万円	9月30日 必着厳守	1件 100~250万円	原則として45歳未満の日本人研究者。科学技術、主として科学計測およびその周辺の領域における基礎的な研究を対象とする。
東レ科学技術賞	(財)東レ科学振興会 0473-50-6103 〒279-8555 浦安市美浜1-8-1	2件前後	10月9日 必着	金メダル 1件500万円	学術上の業績顕著なもの、学術上重要な発見をしたもの、重要な発明により効果が大きいもの、技術上の重要問題を解決し貢献が大きいもの。
東レ科学技術助成	東レビル	総額 1億3千万円	10月9日 必着	10件程度 1件につき 3,000万円程度まで	科学技術の基礎的な研究に従事し、その研究成果が科学技術の進歩発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を行っている若手研究者。

賞名	授賞団体	授賞件数	提出締切	賞金額	受賞資格
内藤記念 科学振興 賞	(財) 内藤記念科学振興 財団 03-3813-3005 〒113-0033 東京都文京区本郷3-42- 6 NKDビル8F	2件	11月10日	金メダル 1件 300万円	人類の健康に関する自然科学の基礎 研究、とくに健康増進、疾病の治療 と予防に功績をあげた研究者
ブレイン サイエン ス財団研 究助成	(財) ブレインサイエン ス振興財団 03-3273-2565 〒104-0028 東京都中央区八重洲2- 6-20	約10件	11月30日	1件約 100万円	ブレインサイエンス研究分野（脳神経 に関する自然科学的研究をすべて含む 研究領域）において、独創的で国際的 評価に値する研究者。なるべく若い 者、単独、または共同研究も可。
塚原仲見 記念賞		2件以内	11月30日	1件約 100万円	生命科学の分野において優れた独創的 研究を行なっている45歳以下の研究 者。
三菱財団 自然科学 研究助成	(財) 三菱財団 03-3214-5754 〒100-0005 東京都千代田区丸ノ内 2-5-2 三菱ビル内	30件程 度	2月下旬	1件2千万 円以内 総額 約3億円	自然科学の基礎分野における独創的、 かつ先駆的研究に対し助成。
山田科学 振興財団 研究援助	(財) 山田科学振興財団 06-757-3311 (428) 〒544-8666 大阪市生野区巽西1-8-6 ロート製薬（株）内	総額 4千万円	3月31日	1件につき 100~500 万円	自然科学の基礎的分野における重要か つ独創的な研究、とくに学際的色彩を 持つ研究に従事する個人またはグルー プに対し助成。
笹川科学 研究助成	日本科学協会 03-3502-1913 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15- 16 イジカンビル	約400件	9月~10月	1件 100万円 まで	人文・社会および自然科学（医学を除 く）または境界領域に関して、萌芽 性、独創性または新規性の強い内容 で、1年以内で成果が期待できる研究 に助成。継続研究も可。35歳以下。 大学院生は年齢制限なし。
林女性自 然科学者 研究助成	公益信託林女性自然科学 者研究助成基金 03-3277-7497 〒103-0002 東京都中央区日本橋室町 2-1-1 三井信託銀行内	10数件 数件 総計 5~6名	3月31日 3月31日 9月30日 3月31日	総額2千万 円（最高 500万円） 総額150 万円 2年間 100~200 万円	化学一般ならびに化学に関連ある物理 学・生物学の分野で基礎研究に従事す る女性研究者およびグループ。 同上研究者の研究発表または共同研究 のための海外渡航。 同上研究者で常勤的職についていない 博士号を有する者、または博士号をめ ざす者。
井上 学術賞	(財) 井上科学振興財団 03-3477-2738 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町11- 20	5件以内	9月20日	1件 200万円	自然科学の基礎的研究者で特に顕著な 業績を挙げた者（ただし締切日現在満 50歳未満）。
猿橋賞	女性科学者に明るい未来 をの会 03-3330-2455 〒166-0003 東京都杉並区高円寺北 4-29-2-217	1件	11月末日	30万円	自然科学の分野で顕著な業績をおさめ た女性科学者（ただし推薦締切日での 時点で満50歳未満）。

国際シンポジウム

「SIGNALING SYSTEMS CONTROLLING DEVELOPMENT」

形態形成の素過程となる胚葉分化、前後、背腹、遠近、左右の極性決定そして組織間相互作用による細胞増殖、分化の制御を中心に、発生を制御するシグナル系と転写制御機構について最前線の研究が紹介され、討論されます。BMP、hedgehog、Wnt、FGF、Notch、Hox、Otx、Pax などが取り上げられます。

招待参加者：Thomas B. Kornberg, Richard S. Mann, Randall T. Moon, Jeff L. Wrana, Gail R. Martin, Cliff Tabin, Norbert Perrimon, Roel Nusse, Hiroshi Hamada, Tasuku Honjo, Kohei Miyazono, Shinichi Aizawa, Youichi Nabeshima and others.

日 時：1998 年 10 月 15 日 8:30—17:00

1998 年 10 月 16 日 8:30—15:00

場 所：名古屋国際会議場センチュリーホール

主 催：日本生化学会・CGGH フォーラム

共 催：国際協力医学研究振興財団

協 賛：日本分子生物学会、日本細胞生物学会、日本発生生物学会、
重点領域研究「ボディープラン」

参加費：主催、協賛学会の会員は無料、非会員は 1,000 円

演題ピックアップ：日本生化学会大会の一般演題「発生」に登録した演題からテーマに沿った魅力的な演題を一部シンポジウムの演題としてピックアップします。

組織委員：黒岩 厚（委員長、名古屋大学理学研究科）

上野直人（基礎生物学研究所）

黒沢良和（藤田保健衛生大学）

村松 喬（名古屋大学医学部）

第71回 日本生化学会大会のご案内

第71回日本生化学会大会は、平成10年10月14日（水）より17日（土）までの4日間、愛知県名古屋市の名古屋国際会議場において開催されます。

今大会では、より多くの若手研究者に発表していただける場となるようなプログラムを企画しております。まずその一つとして、今大会では多数のシンポジウムを予定しており、各々のシンポジストにつきましては公募を行います。また、一般講演につきましては、応募数の約2割をプログラム委員会で選出し、シンポジウムに準じた形式に組織します。残りをポスター発表で行う予定です。詳細につきましては本会会誌「生化学」70巻2、3号をご覧ください。

また、今大会では、演題分類として別表のような7つの柱を設け、それぞれの柱を中心にプログラム編成を行います。

なお、代表発表者は本年度の会員に限ります。未入会の方は早目に入会手続きをお済ませ下さい。

[入会申し込み先]

〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル3F

(社) 日本生化学会会員係

T E L 03-3815-1913 F A X 03-3815-1934

[大会問合せ先]

〒466-8855 名古屋市昭和区鶴舞町65

名古屋大学医学部薬理学教室内 第71回日本生化学会大会事務局

T E L 052-744-2080 F A X 052-744-2083

1. 生体分子とその代謝

- | | | |
|-----------------|--------------|--------------|
| ・ 遺伝子・ゲノムの構造 | ・ タンパク質の一次構造 | ・ タンパク質の高次構造 |
| ・ タンパク質の構造と機能相関 | | ・ 分子複合体の高次構造 |
| ・ 糖と糖鎖生物学 | ・ 脂質 | ・ リポタンパク質 |
| ・ プロテオグリカン | ・ 薬物 | ・ フリーラジカル |
| ・ 酸化還元酵素 | ・ 活性ペプチド | ・ 無機化合物 |

2. 遺伝情報の展開

- | | |
|---|------------------|
| ・ 3R (replication, recombination, repair) | ・ 転写・RNA プロセッシング |
| ・ 翻訳 | ・ タンパク質のフォールディング |
| ・ タンパク質の翻訳後修飾 | ・ ウイルスの遺伝子 |
| ・ プロテオリシス | ・ 分子シャペロン |

3. シグナルの受容とトランスダクション

- | | | |
|-----------------|----------------|----------------|
| ・ ペプチドホルモン、増殖因子 | ・ 細胞膜レセプター | ・ 核内レセプター |
| ・ 脂質シグナリング | ・ プロテインキナーゼ | ・ プロテインホスファターゼ |
| ・ カルシウム結合タンパク質 | | ・ サイクリックヌクレオチド |
| ・ NO | ・ 活性酸素 | ・ Gタンパク質 |
| ・ イオン | ・ 上記に含まれない伝達分子 | |

4. 増殖・分化・アポトーシス

- | | | |
|----------|--------|--------|
| ・ 細胞増殖 | ・ 細胞分化 | ・ 細胞周期 |
| ・ アポトーシス | ・ 細胞分裂 | |

5. 細胞の構造と諸機能

- | | | |
|--------------|---------------------|------------------|
| ・ 染色体、核 | ・ 生体膜 | ・ オルガネラ |
| ・ 細胞骨格 | ・ イオンチャンネル、ポンプ、 | ・ 生体エネルギーとATPアーゼ |
| ・ 細胞運動・収縮 | 膜透過機構 | |
| ・ 細胞内物質輸送と分泌 | ・ 細胞認識と接着、細胞外マトリックス | |

6. 高次機能と疾患

- | | | |
|-------------------|-----------|---------------|
| ・ 発生 | ・ 再生・修復 | ・ 神経機能 |
| ・ 免疫 | ・ がん | ・ 疾患遺伝子、病態生化学 |
| ・ 加齢と成人病 | ・ 感染症 | ・ HIV |
| ・ 神経変性疾患、アルツハイマー病 | ・ 血管とその疾患 | ・ 植物 |
| ・ 遺伝子治療 | ・ 生物時計 | |

7. 生命工学と生命理論

- | | | |
|----------------|--------|-------------|
| ・ トランスジェニック生物と | ・ 分子設計 | ・ DNA・RNA工学 |
| 遺伝子ターゲティング | ・ 細胞工学 | ・ 分子進化 |
| ・ 人工酵素、タンパク質工学 | | ・ 生化学の新しい技術 |
| ・ 生命の起源 | | |

平成10年度第4回日本生化学会春季シンポジウムのお知らせ

『細胞外マトリックス研究の新しい歩み』 *Frontiers in Matrix Biology*

日時：平成10年6月20日(土)～22日(月)

場所：広島国際会議場（広島市）

オーガナイザー：二宮善文（岡山大学医学部）、吉里勝利（広島大学理学部）

主催：日本生化学会・CGGHフォーラム、

共催：財団法人国際協力医学研究振興財団

後援：国際マトリックス生物学会(ISMB)、日本分子生物学会、日本細胞生物学会、
日本結合組織学会、マトリックス研究会

6月20日（土）

Registration and Opening (12:00-13:00)

Plenary Lecture : Dr. Bjorn R.Olsen (Harvard Medical School, Boston) (13:00-14:00)

Cell/Matrix signaling in vascular morphogenesis

Session I: Morphogenesis and Organogenesis (14:30-17:30)

Dr. Gerard Karsenty (MD Anderson, Houston): Cbfa1 and bone formation

Dr. Reinhard Faessler (Max-Planck Institute, Martinsried): Integrin knockout

Dr. Junko Fujisawa (National Center for NMMD, Kodaira): Meltrin family

Meet the Speakers (18:30-19:30)

6月21日（日）

Session II: Tissue Regeneration (9:00-12:00)

Dr. Dean Sheppard (University of California, San Francisco): Epithelial Integrins.

Dr. Scott B. Selleck (University of Arizona, Tucson): Proteoglycans in Development.

Dr. George K. Michalopoulos (University of Pittsburgh, Pittsburgh): Liver regeneration

Dr. Katsutoshi Yoshizato (Hiroshima University, Hiroshima): Mesenchyme-dependent hepatocyte growth

Session III: Molecular Genetics and Protein Function (14:00-17:00)

Dr. John Bateman (University of Melbourne, Parkville): Metaphyseal chondrodysplasia

Dr. Michel van der Rest (CNRS-CEA, Grenoble): Triple-helix formation

Dr. Darwin Prockop (Allegheny University, Philadelphia): Gene therapy

Dr. Kazuhiro Nagata (Kyoto University, Kyoto): Regulation and function of HSP47

Reception:ANA Hotel Hiroshima (18:30-21:00)

6月22日（月）

Session IV: Vascular Biology and Tumor Metastasis (9:00-12:00)

Dr. Michael O'Reilly (Children's Hospital/HMS, Boston): Endostatin

Dr. Charles Little (Medical Univ. of South Carolina, Charleston): Building a blood vessel

Dr. Rama Khokha (Princess Margaret Hosp., Toronto): TIMP transgenic mice

Dr. Motoharu Seiki (University of Tokyo, Tokyo): MT-MMPs

事前登録の締切は平成10年3月31日です。

一般演題としてポスター発表を行います。また、上記セッションと関連の話題を口演演題として選出しますので多数ご応募下さい。（演題締切は平成10年4月20日で e-mailでも受け付けます。）

宿泊予約等を含む本シンポジウムの詳細は日本生化学会のホームページ（<http://www.bcasj.or.jp/jb/jbshome/jbs-home.html>）に適宜、掲示しますのでご覧下さい。

本シンポジウムの問い合わせ先：小原政信（〒739 東広島市鏡山1-3-1 広島大学理学部）

Tel: 0824-24-7442, Fax: 0824-24-1492, e-mail: mobara@sci.hiroshima-u.ac.jp

平成10年度第5回日本生化学会春季シンポジウムのお知らせ

5th CGGH Symposium 1998

"Generation and Lineage Commitment of Stem Cells" (幹細胞の発生と分化決定)

日時：1998年7月9日(木) - 10日(金) 場所：筑波大学 大学会館 (つくば市天王台)

オーガナイザー：帯刀益夫(東北大学加齢医学研究所)：山本雅之(筑波大学TARAセンター)

主催：日本生化学会、CGGHフォーラム、共催：国際協力医学研究振興財団

協賛：日本分子生物学会、日本細胞生物学会

1998年7月9日(木)

13:00 - 16:00: Session 1: Determination of Neural Stem Cell

Dr. Ryoichiro Kageyama (Kyoto University, Kyoto)

Dr. Tom Hazel (N.I.H., Bethesda)

Dr. Takahisa Furukawa (Harvard Medical School, Boston)

Dr. Fumio Matsuzaki (National Neuroscience Research Center, Tokyo)

16:15 - 18:00 Poster Session (Poster 展示は 11:00 より、翌日12:30まで)

18:00 - 19:00 Meet the Speakers

19:00 - 21:00 懇親会(参加費：3千円)

1998年7月10日(金)

9:30 - 12:30: Session 2: Generation, Self-renewal and Commitment of Hematopoietic Stem Cells

Dr. Elaine Dzierzak (Erasmus University, Rotterdam)

Dr. Isabelle Godin (CNRS, Nogent sur Marne)

Dr. Takahiko Hara (University of Tokyo, Tokyo)

Dr. Ihor R. Lemischka (Princeton University, Princeton)

Dr. Masuo Obinata (Tohoku University, Sendai)

13:30 - 16:30: Session 3: Transcriptional Regulation in Lineage Commitment of Hematopoietic Stem Cells

Dr. Sergio Ottolenghi (University of Milan, Milan)

Dr. George Stamatoyannopoulos (University of Washington, Seattle)

Dr. Masayuki Yamamoto (University of Tsukuba, Tsukuba)

Dr. Frank Grosveld (Erasmus University, Rotterdam)

Dr. Tariq Enver (Leukemia Research Fund Center, London)

本シンポジウムでは、一般演題としてポスター発表を行いますので、多数ご応募ください。
(演題締め切りは1998年6月7日で、e-mailでも受け付けます。)

本シンポジウムに関するお問い合わせ先：帯刀 益夫

(〒980-77 仙台市青葉区星陵町4-1、東北大学 加齢医学研究所 分子発生研究分野：

TEL : 022-717-8483、FAX : 022-717-8488、e-mail : stem@idac.tohoku.ac.jp

なお、本シンポジウムの詳細については、ホームページ

(<http://www.idac.tohoku.ac.jp/stem/Index.htm>) でも掲示していますのでご覧ください。

広島大学理学部附属両生類研究施設教官公募

公募人員：種形成機構研究部門 教授 1名

研究分野：両生類の種分化に関する系統学的研究を生化学的・分子生物学的手法等を用いて行う。

大学院との関係：大学院理学研究科（生物科学専攻）において授業（両生類種形成論）を担当。

応募資格：①関連分野の研究者で、着任後は、両生類を研究対象にする人。（これまでの研究において両生類を研究材料としていることは、必ずしも必要ではありません。）②博士の学位を有する者

着任時期：平成11年1月1日以降の早い時期

提出書類：①履歴書②業績リスト③代表的論文の別刷5篇④これまでの研究概要（2000字程度）⑤着任後の研究抱負（2000字程度）

公募〆切：平成10年7月末日（消印有効）

書類送付先：〒739-8526 東広島市鏡山1丁目3番1号

広島大学理学部長 牟田泰三（本件の応募書類であることを封筒に朱書きして「書留便」にて送付ください。）

問い合わせ先：広島大学理学部附属両生類研究施設 施設長 教授 吉里勝利

TEL（0824）24-7440（ダイヤルイン）

会 員 異 動

<新入会員>

(氏名)	(所属)	(住所)	(①テーマ、②材料)
平野 伸二	愛知県コロニー発達障害研究所	〒480-0304 春日井市神屋町713	
室谷 進	農林水産省畜産試験場	〒305-0901 茨城県稲敷郡茎崎町池の台2	(1)鳥骨鶏の色素細胞の挙動
学高橋 源尚	奈良先端科学技術大学院大学動物代謝調節学	〒630-0101 生駒市高山町8916-5	(1)発生におけるHomeobox geneの役割 (2)ニワトリ・マウス・ヒト
三宅 歩	三菱化学生命科学研究所 プロジェクト6-1	〒194-8511 町田市南大谷11	(1)脳胞の形成機構の解明 (2)ゼブラフィッシュ
蔣 麗萍	東京大学大学院医学系研究科口腔外科学講座	〒113-0033 文京区本郷7-3-1	(1)実験進化学 (2)哺乳類(イヌ、ラット)、両棲類
木下 典行	国立京都神経科学総合研究所神経生理学部門	〒183-0042 府中市武蔵台2-6	(1)神経発生 (2)アフリカツメガエル
岩淵 万里	東京工業大学生命理工学部生体機構・発生生物	〒226-0026 横浜市緑区長津田町4259	(1)細胞周期制御 (2)アフリカツメガエル
山根 明	鶴見大学歯学部薬理学教室	〒230-0063 横浜市鶴見区鶴見2-1-3	(1)歯・舌・咬筋の発生 (2)マウス、ラット
志賀 靖弘	東京薬科大学生命科学部環境分子生物学研究室	〒192-0392 八王子市堀之内1432-1	(1)甲殻類の形態の多様性と形態形成遺伝子の分子進化の関係 (2)オオミジンコ
木村 賢一	北海道教室大学岩見沢校生物研究室	〒068-0835 岩見沢市緑が丘2	(1)神経系の発生 (2)ショウジョウバエ
近藤 滋	徳島大学総合科学部	〒770-0814 徳島市南常三島町1-1	(1)形態形成 (2)ゼブラフィッシュ
中山 卓哉	Cell & Developmental Biol., L215, Oregon Health Sciences Univ.	3181 SW Sam Jackson Park Rd., Portland, OR 97201-3098, U.S.A.	(1)Xenopus 初期発生 (2)Xenopus laevis
岸本 康之	Max-Planck-Institut für Entwicklungsbiologie Abteilung Genetik	Spemannstr. 35/III, 72076, Tübingen, Germany	(1)初期発生における背腹軸形成機構 (2)ゼブラフィッシュ
学鈴木美輝子	東京医科歯科大学歯学部口腔病理	〒113-0034 文京区湯島1-5-45	(1)新規geneのcloning、発現解析 (2)トリ、ウズラ
学山北 真也	大阪市立大学理学部発生生物学研究室	〒558-0022 大阪市住吉区杉本3-3-138	(1)アフリカツメガエルの生殖顆粒に局在するタンパク質をコードする遺伝子のクローニング (2)アフリカツメガエル
学堀米 直人	熊本大学大学院理学研究科生物科学専攻分子生物学講座	〒860-0862 熊本市黒髪2-39-1	(1)脊椎動物とは? (2)カワヤツメ
学百瀬 剛	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科	〒630-0101 生駒市高山町8916-5	(1)眼の発生における誘導と形態形成 (2)ニワトリ
学東 千絵子	東京大学大学院理学系研究科物理学教室堀田研究室	〒113-0033 文京区本郷7-3-1	(1)神経系の初期発生 (2)キイロショウジョウバエ
学北口 哲也	理化学研究所分子神経生物学	〒305-0074 つくば市高野台3-1-1	(1)神経発生 (2)アフリカツメガエル

太田真由美	京都大学大学院理学研究 科生物科学専攻植物学教 室	〒606-8224	京都市左京区北白川追分町	①シロイヌナズナの根毛形態形成に 関与する遺伝子の解析 ②シロイヌナズナ
渡邊 裕二	東北大学加齢医学研究所 分子神経研究分野	〒980-8575	仙台市青葉区星陵町4-1	①脳神経系の発生とパターンニング ②ニワトリ
山本 卓也	ボーラ化成工業(株)中央研 究所基盤技術研究所	〒244-0812	横浜市戸塚区柏尾町560	①毛包-毛乳頭相互作用 ②mouse, rat
古丸 明	三重大学生物資源学部生 物資源学科	〒514-0008	津市上浜町1515	①単為発生生物の減数分裂機構
金 明鎬	大阪大学医学部神経機能 解剖学	〒565-0871	吹田市山田丘2-2	①神経発生・細胞分化 ②ショウジョウバエ <i>Drosophila melanogaster</i>
飯田 弘	九州大学農学部動物学講 座	〒812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	
荒木 崇志	大阪大学医学部神経機能 解剖学	〒565-0871	吹田市山田丘2-2	①腎臓の発生におけるアポトーシス
澤 斉	大阪大学医学部神経機能 解剖学	〒565-0871	吹田市山田丘2-2	①非対称分裂 ② <i>C. elegans</i>
牧野 悟士	東海大学医学部分子生命 科学2	〒259-1193	伊勢原市望星台	①セキツイ動物の形態形成 ②メダカ
日比 正彦	大阪大学医学部バイオメ ディカル教育研究セン ター腫瘍病理研究部門	〒565-0871	吹田市山田丘2-2	①初期発生に関与する形態形成遺伝 子 ②ゼブラフィッシュ
石黒 澄衛	京都大学大学院理学研究 科植物学教室	〒606-8502	京都市左京区北白川追分町	①高等植物の形態形成とシグナル伝 達 ②シロイヌナズナ(<i>Arabidopsis thaliana</i>)
杉野 友啓	東レ(株)基礎研究所安全性 研究室	〒520-0842	大津市園山3-1-2	①ラット in vitro での生殖毒性試験 系の確立 ②ラットライディヒ初代培養細胞
政井 一郎	理化学研究所脳科学総合 研究センター発生遺伝子 制御	〒351-0198	和光市広沢2-1	①developmental biology neurobiology ②zebrafish, amphioxus
久下 英明	高知医科大学医化学	〒783-8505	南国市岡豊町小蓮	①母性mRNAの翻訳調節 ②アフリカツメガエル
渡邊 利雄	東北大学加齢医学研究所 免疫遺伝子制御	〒980-8575	仙台市青葉区星陵町4-1	①造血発生 ②マウス
池谷 智淳	国立遺伝学研究所無脊椎 動物遺伝	〒411-8540	三島市谷田1111	①昆虫の気管形成 ②キイロショウジョウバエ
荒木 崇	京都大学大学院理学研究 科生物科学専攻	〒606-8502	京都市左京区北白川追分町	①栄養成長から生殖成長への転換の 遺伝学的制御機構、分裂組織の構 造・機能維持機構 ②シロイヌナズナ(<i>Arabidopsis thaliana</i>)
松野 健治	大阪大学医学部バイオメ ディカル教育研究セン ター神経機能解剖学	〒565-0871	吹田市山田丘2-2	①Notch情報伝達系、左右軸の決定 ②ショウジョウバエ、マウス
伊藤美紀子	大阪大学医学部バイオメ ディカル教育研究セン ター神経機能解剖学	〒565-0871	吹田市山田丘2-2	①Notch情報伝達系 ② <i>Drosophila</i>

宿南 知佐	大阪大学歯学部生化学	〒565-0871	吹田市山田丘1-8	①軟骨分化の機構 ②マウス
村田 武英	理化学研究所ライフサイエンス筑波研究センター	〒305-0074	つくば市高野台3-1-1	①発生におけるNotchシグナルの役割、winglessの発現調節機構 ②Drosophila melanogaster
芝田 英生	ERATO, JST土居バイオアシンメトリプロジェクト	〒300-2635	つくば市東光台5-9-9 筑波研究コンソーシアム	①ゲノム・インプリンティング、発生分化における遺伝子発現調節 ②マウス(Mus musculus)、ヒト(Homo sapiens)
学小林 亜子	京都大学大学院理学研究科分子発生研究室	〒606-8502	京都市左京区北白川追分町	①マボヤ初期胚における母性遺伝子の役割 ②マボヤ
学片平 立矢	東北大学加齢医学研究所分子神経研究分野	〒980-8575	仙台市青葉区星陵町4-1	①中脳視蓋の形態形成 ②ニワトリ
学佐藤 達也	東北大学加齢医学研究所分子神経研究分野	〒980-8575	仙台市青葉区星陵町4-1	①脳の形態形成 ②ニワトリ胚
学岡藤 辰也	東北大学加齢医学研究所分子神経研究分野	〒980-8575	仙台市青葉区星陵町4-1	①網膜－視蓋投射の分子機構 ②ニワトリ
学勝倉 由樹	石巻専修大学大学院理工学研究科	〒986-8580	石巻市南境新水戸1	①発生制御に関与するペプチド性シグナル分子群の研究 ②カイウミヒドラ(Hydractinia echinata)
学岸 憲幸	大阪大学医学部神経機能解剖学教室	〒565-0871	吹田市山田丘2-2	①Notch情報伝達系の解析 ②Drosophila melanogaster, Mouse
学兼松 真	関西学院大学理学部木下研究室	〒662-0891	西宮市上ヶ原1番町1-155	①生物の初期発生のメカニズム ②アフリカツメガエル(Xenopus laevis)
学長谷川光一	関西学院大学理学部木下研究室	〒662-0891	西宮市上ヶ原1番町1-155	①体軸形成における分子メカニズム、誘導・分化決定 ②アフリカツメガエル(Xenopus laevis)、ハラアカイモリ
学足立 仁	大阪大学細胞生体工学センター濱田研究室	〒565-0871	吹田市山田丘1-3	①発生過程における左右軸形成機構 ②マウス
学廣田 ゆき	大阪大学バイオメディカル教育研究センター神経機能解剖学研究部	〒565-0871	吹田市山田丘2-2	①神経発生 ②キイロショウジョウバエ
学田口 明子	大阪大学バイオメディカル教育研究センター神経機能解剖学研究部	〒565-0871	吹田市山田丘2-2	①細胞分化とシグナル伝達 ②Drosophila melanogaster (ショウジョウバエ)
学依田 成玄	大阪大学バイオメディカル教育研究センター神経機能解剖学研究部	〒565-0871	吹田市山田丘2-2	①神経発生 ②C. elegans
学湯浅 喜博	大阪大学バイオメディカル教育研究センター神経機能解剖学研究部	〒565-0871	吹田市山田丘2-2	①神経発生 ②Drosophila
学小川 麻里	広島大学理学部遺伝子科学専攻遺伝子発現機構学講座	〒739-8526	東広島市鏡山1-3-1	①初期発生における遺伝子発現の制御機構 ②バフンウニ

学日下部りえ	北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻	〒060-0810	札幌市北区北10条西8丁目	①発生生物学、分子進化学 ②メダカ
学秋葉 栄治	東北大学大学院理学研究科生物学専攻	〒980-8578	仙台市青葉区荒巻字青葉	①四肢パターン形成 ②ニワトリ
学中田 勝紀	理化学研究所ライフサイエンス筑波研究センター分子神経生物学研究室	〒305-0074	つくば市高野台3-1-1	①分子神経生物学 ②Xenopus
学岡戸 清	東京都立大学大学院理学研究科生物学専攻	〒192-0397	八王子市南大沢1-1	①消化管の形態形成における細胞接着因子の分布と機能の関係 ②ニワトリ
学成田 知弘	東京都立大学理学部生物学教室	〒192-0397	八王子市南大沢1-1	①消化器官の形態形成と分化 ②ニワトリ
学荒川 伴子	東海大学大学院海洋学研究科海洋生物学専攻	〒424-8610	清水市折戸3-20-1	①魚類の発生工学 ②シロウオ(<i>Leucopsarion petersii</i>)
学伊藤実和子	熊本大学大学院理学研究科	〒860-8555	熊本市黒髪2-39-1	①精子形成 ②アカハライモリ、アフリカツメガエル
学山田 温子	東京工業大学大学院生命理工学研究科	〒226-8501	横浜市緑区長津田町4259	①卵細胞質内組織決定因子の局在について ②マボヤ
学金 吉中	東京工業大学大学院生命理工学研究科	〒226-8501	横浜市緑区長津田町4259	①ホヤ胚における間充細胞の運命決定メカニズムの解析 ② <i>Halocynthia roretzi</i> マボヤ
学永崎 暁	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻	〒153-0041	目黒区駒場3-8-1, 15号館314号室	①両生類の初期発生についての研究 ② <i>Xenopus laevis</i>
学嶋田 益弥	北海道大学薬学部薬品生物化学講座	〒060-0812	札幌市北区北12条西6丁目	①軸形成、脊索形成における転写因子の役割 ②マボヤ
学石川 亜紀	東京都立大学理学部化学科生物化学研究室	〒192-0397	八王子市南大沢1-1	①発生工学的手法を用いた生体機能の解析 ②マウス
学金田 靖行	北海道大学大学院地球環境科学研究科生態環境科学専攻	〒060-0810	札幌市北区北10条西8丁目	①哺乳類の初期発生、X染色体不活性化、ゲノムインプリンティング ②マウス
学松下 武史	東京大学薬学部発生胞化学教室	〒113-0033	文京区本郷7-3-1	①精子形成の分子メカニズム解明 ②ショウジョウバエ
学望月 俊昭	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	〒113-0033	文京区本郷7-3-1	①シュベーマンオーガナイザーにおける転写因子ネットワークの解析 ②アフリカツメガエル(<i>Xenopus laevis</i>)
学木村 淳	東北大学大学院理学研究科生物学専攻井出研	〒980-8578	仙台市青葉区荒巻字青葉	①四肢の形態形成 ②ニワトリ
学矢嶋 浩	東北大学大学院理学研究科生物学専攻分子細胞生物学講座発生生物学	〒980-8578	仙台市青葉区荒巻字青葉	①四肢の発生 ②ニワトリ
学久保田一政	国立遺伝学研究所	〒411-8540	三島市谷田1111	①ショウジョウバエ翅・足の形成機構 ②キイロショウジョウバエ

<会員資格変更>

学生→正会員

植木 龍也	広島大学理学部付属臨海実験所	〒722-0073	広島県御調郡向島町2445
海外→国内			
石 龍徳	順天堂大学医学部第二解剖学教室	〒113-0033	文京区本郷2-1-1
和田 洋	京都大学瀬戸臨界実験所	〒646-2211	和歌山県西牟婁郡白浜町459

<退会者>

久保 俊之	田中 彰	渡辺 敦光	渡辺 彊	矢島 英雄	宇佐見 誠
豊田 裕	上野 淳一	宮崎 歴	磯田 和良	西田 幸代	高市 美穂
上野 陽子	橋本 陽一	倉持 朗	近藤 玄	清水 英樹	

〔賛助会員〕

研究者のニーズにハートで応える(株)池田理化

〒101 千代田区鍛冶町1-8-6神田K Sビル
T E L 03-5256-1051

(有)共進理工“細胞分別”ナイロンメッシュ

〒113 文京区本郷5-13-1ドエル本郷205
T E L 03-3813-1073

生命誌研究館

〒569 高槻市紫町1-1
T E L 0726-81-9750

先端テクノロジーをサポートする日京テクノス(株)

〒113 文京区本郷2-17-8鈴木ビル
T E L 03-3814-2066

三菱化学生命科学研究所

〒194 町田市南大谷11
T E L 0427-24-6226

明治乳業(株)ヘルスサイエンス研究所

〒250 小田原市成田540
T E L 0465-37-3661

賛助会員へのご入会のお願い

日本発生生物学会
会長 岡田 益吉

近年、ライフサイエンス、バイオテクノロジー等の言葉が広く語られ、生物学に大きな関心と注目が払われるようになってまいりました。

日本発生生物学会は、発生生物学の進歩と普及をはかるため設立された学会で、日本を主に、外国の発生学者を混じえて約1,300名を結集しております。発生学は、言うまでもなく医学・農学等の諸分野とも深い関連を有しており、最近とみに進展の著しい遺伝情報発現をめぐる諸問題、癌細胞の基礎的研究、老化の問題等も発生生物学の大きな関心の的になっております。日本発生生物学会は、これらの分野での活発な研究者を会員としております。又、本学会の刊行致しております欧文誌“Development, Growth and Differentiation”(DGD)もこの方面の国際的学術雑誌として高く評価されております。

貴社におかれましては、このような学問の重要性をすでに御承知のことと存じます。何卒、本学会趣旨に御賛同の上、賛助会員として本会を御支援賜りますよう御願い申し上げます。

なお、賛助会員は年3回発行される「インフォメーション・サーキュラー」誌上に特記され、本会の刊行する欧・和文刊行物(会員名簿を含む)が配布されます。会費は、一口三万円を申し受けております。御入会の際は、入会申込書を事務局までお送り下さい。

連絡先：日本発生生物学会事務局(八杉貞雄)

〒192-0397 八王子市南大沢1-1

東京都立大学大学院理学研究科生物学教室

TEL 0426-77-2572(直通) FAX 0426-77-2559

-----切-----り-----取-----り-----線-----

日本発生生物学会賛助会員入会申込書

年 月 日

賛助会員として入会の申し込みを致します。

(_____ 口 _____ 円)

住 所

会 社 名

担当者名

電話番号

㊞

日本発生生物学会への入会について

同封の「申し込み票」および「会員カード」に必要事項を御記入の上、日本学会事務センター宛お届け下さい。

ご参考までに学会事業の内容をお知らせ致します。

a) 学会誌の刊行

Development, Growth & Differentiation

年1巻、6冊刊行

b) 年1回、研究発表のほか、招待講演、シンポジウムなどがあり、また、会則による総会が開かれます。大会講演要旨集が予め全会員に配布されます。

c) インフォメーション・サーキュラー

大会の予告、予算案、決算、運営委員会の報告など、学会の事業の連絡やその他会員の消息、関連学会の動きなどを掲載したサーキュラーが年3～4回配布されます

d) 和文単行書の編集

学会内の委員会の企画により、単行書を編集し刊行しています。会員は（刊行後一定期間に限り）割引価格で購入できます。既刊分は「発生における制御」「初期発生における細胞」「エイジングの生物学」「動物の器官形成」「受精の生物学」「変態の生物学」「発生における分子識別」です。

なお、会費は前納制です。前年度末までに、次年度の会費をご納入下さい。

会費、発送物、入退会、住所変更に関する問い合わせ先は

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21

(財)日本学会事務センター 日本発生生物学会 係

T E L 03-5814-5810

学生の方は、学生証のコピーを添付して、お申込み下さい。

なお学生資格は、学部学生、大学院生、及び大学、研究所等で、学生証あるいはそれに準ずる証明書を有する学生、研究生等です。

----- 切 り 取 り 線 -----

日本発生生物学会入会申し込み票

(年 月 日)

氏名	氏名ローマ字綴り (フル・ネーム)
研究主題 (もしくは関心のあるテーマ)	所属機関名とその所在地
研究材料名 (和名・学名など)	(電話 内線) (〒)
	(ファックス) e メールアドレス 上記以外に連絡を希望される場合の連絡場所 (自宅の場合は自と記入のこと) (〒)
会への要望	

(I) 会員カードの記入要領

1. 会員カードはすべてコンピューターに記憶させますので楷書ではっきり記入して下さい。また指定箇所には、「フリガナ」または「ローマ字」で記入して下さい。
2. 氏名は点線の左側に姓、右側に名を記入して下さい。
3. 郵便番号は所定の欄に記入して下さい。
4. 所属機関の名称は原則として、大学の場合には学部・学科まで、会社等の場合には部・課までを記入して下さい。
5. 学歴は最終卒業学校名、卒業年（西暦）を記入して下さい。
修士・博士課程在学中の方は研究科、課程まで、学部在学中の方は在学学校名、在学学年を記入して下さい。
6. 性別・専門・連絡先（＝会誌等送付先）・会員種別については、該当するものを○でかこんで下さい。
7. 本会の会計年度は、1月～12月です。入会年度を所定の欄に必ず記入して下さい。
8. ＊印の欄には記入しないで下さい。

(II) 会費の送金方法について

1. 会員カードを返送していただいてから1か月以内に請求書を発行しますので最寄りの郵便局または銀行よりお振り込み下さい。

(注) 現住所、所属機関等、会員カードの記載事項に変更があった場合はただちに、書面でご連絡下さい。

入会申込書は必ずご返送下さい。

財団法人 日本学会事務センター

日本発生物学会会員係

〒133 東京都文京区本駒込5-16-9

-8622 学会センターC21

T E L 03-5814-5810

広告掲載のお願い

日本発生生物学会は理学，医学，薬学，農学をはじめ分子生物学，細胞生物学，遺伝学など，さまざまな生物学分野で発生生物学の基礎研究に興味を持つ内外の研究者によって組織されている学会であり，国内外に約1,300人の会員を持っております。

英文学術雑誌 Development, Growth and Differentiation は，日本発生生物学会の機関誌で年6回発行し，国内に約1,200部，国外に約600部配布致しております。また会員にはインフォメーション・サーキュラーを年3回配布致しております。

目下，本学会では広告主を募っております。会員各位におかれましても広告主のご紹介等，是非ご協力頂きますようお願い致します。

広 告 料			
D G D 本誌	1 頁	年 6 回	150,000円
	半 頁	〃	78,000円
インフォメーション サーキュラー	1 頁	年 3 回	90,000円
	半 頁	〃	45,000円

尚、サーキュラー用の版下作製代は実費をいただきます。裏表紙は1頁10,000円高となります。

申し込み先：日本発生生物学会事務局（八杉貞雄）

〒192-0397 八王子市南大沢1-1

東京都立大学大学院理学研究科生物学教室

TEL 0426-77-2572(直通) FAX 0426-77-2559

----- 切 り 取 り 線 -----

広告申し込み書

年 月 日

日本発生生物学会 御中

広告の掲載をお願いしたく下記の通り申し込みます。

☐ D G D 本誌	1 頁
☐ 〃	半 頁
☐ サーキュラー	1 頁
☐ 〃	半 頁
住 所	
会 社 名	
担当者名	
電話番号	

印

生細胞の染色に

細胞蛍光標識キット

Cell Linker Technology に基づく細胞染色法で、細胞膜に高親和性を持つ新しいタイプの蛍光色素PKH2またはPKH26 蛍光色素と希釈液とを組み合わせた、細胞蛍光標識キットです。

細胞機能に影響しません

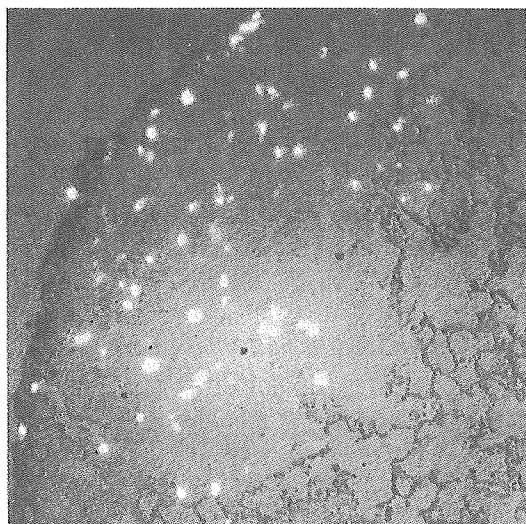
細胞と数分間混合するだけで、生細胞をその機能を損うことなく染色可能で、細胞の移動や増殖のモニタリングに大きな威力を発揮します。

簡便です

従来 ^{51}Cr 等を用いて行われていた LAK 細胞のモニタリングや NK 活性の測定が簡便に、しかも安全に行うことができます。

安定です

ウサギ赤血球を標識した場合、PKH26 では in vivo でその溶出の半減期が100日以上を示し、長期のモニタリングが可能です。



Tumor Localization of PKH26 Labeled TILs.

マウス肺癌組織に浸潤している、PKH26で染色した IL-2 処理リンパ球が観察されます。

Photo Courtesy of
Drs. Per Basse & Ronald H. Goldfarb
Pittsburgh Cancer Institute, Pittsburgh, PA

発売元

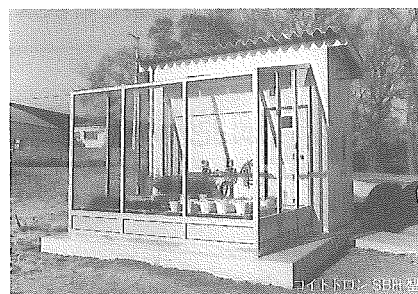


大日本製薬株式会社
ラボラトリー プロダクツ部

〒564 大阪府吹田市江の木町33-94
TEL 大阪 (06) 386-2164(代表)
東京 (03) 3828-6544(代表)

バイオ関連の試験・研究を バックアップ

小糸工業のバイオハザード対応グロースキャビネットは、周囲環境の影響を受けずに、圧力コントロールシステムで実験室内を陰圧に保持します。また、コンパクトで高性能なフィルタユニットとの組み合わせで、実験対象物への空気流による外界からの悪影響を遮断、簡単操作をプラスして、高精度な温・湿度を再現します。



バイオハザード対応グロースキャビネット
コイトトロン **SBH/KGBH** シリーズ

小糸工業株式会社 東京本部 〒108 東京都港区高輪3丁目5番23号(日生高輪台ビル) ☎03(3443)9846 FAX.03(3443)6570
札幌 011(722)5211 東北 022(225)7501 大阪 06(263)6371 九州 092(431)0838 筑波 0298(51)2311 沖縄 098(861)1805

講談社の自然科学専門書

英語論文セミナー 現代の発生生物学

丸山 工作 監修/浅島 誠・大日方 昂・松田 良一 編集

A4・174頁・本体価格3,398円

現代発生生物学の展開を英語論文でたどる。ゲノムの不変性を示した核移植の論文から、細胞接着、ホメオボックス遺伝子、アポトーシス、細胞分化誘導因子など、発生生物学の新しいテーマを扱った論文を紹介。

英語論文セミナー 現代の細胞生物学

丸山 工作 監修/馬淵 一誠・山本 正幸 編集

A4・174頁・本体価格3,398円

英語論文で解き明かす現代細胞生物学の真髄。細胞運動の分子装置と細胞骨格、シグナル伝達とがん遺伝子、細胞膜における受容体やチャネルの働きなど、ますます発展する細胞生物学の核となる論文を紹介する。

英語論文セミナー 現代の分子生物学

丸山 工作 監修/渡辺 公綱・桂 勲 編集

A4・174頁・本体価格3,400円

この一冊で珠玉の英語論文がスラスラ読める。現代分子生物学にインパクトを与えた論文18編を精選し、第一線の研究者が解説と訳注を執筆。遺伝子発現、RNAワールド、分子シャペロンなど興味深いテーマを満載。

※上記本体価格に消費税が別に加算されます。

東京都文京区音羽2-12-21
振替 東京 8-3930

講談社

編集部 ☎03(3235)3701
販売部 ☎03(5395)3624

アフリカ ツメガエル

澄んだ空気、汚染のない川、
沼の水等、恵まれた自然環境
の下で育った良質のアフリカ
ツメガエル。

使用目的：遺伝子組換、動物
クローン研究、細胞操作、イ
ンターフェロン培養、教材と
して生理・解剖実験に御使用
下さい。

（当養殖場では、水道水を一
切使用しておりません。）



お 問 い 合 わ せ は

養殖
販売 **北日本生物教材**

代表 三 上 正 義

フリーダイヤル セノバスはクローン

0120-084896

（午前発注：即日発送）（月～金曜日：午前9時～午後5時）

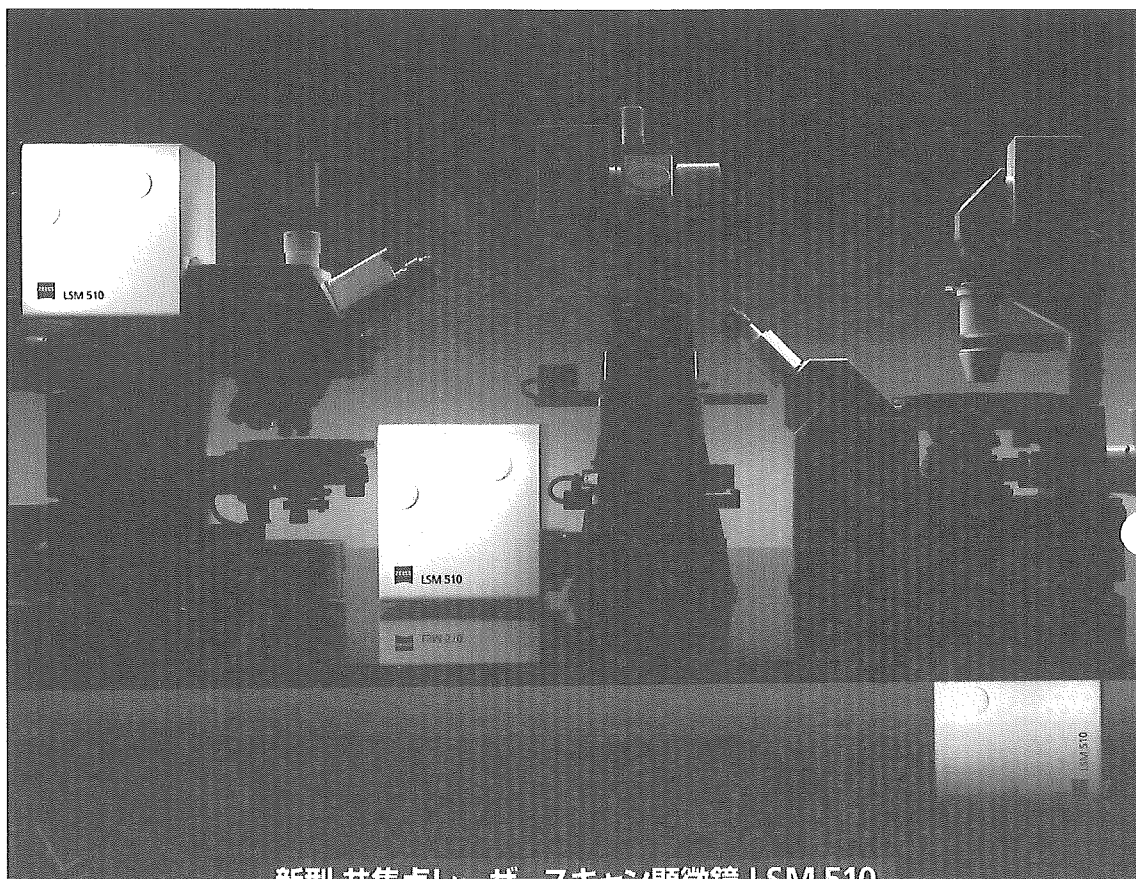
〒036-15

青森県中郡相馬村大字坂市沢113

TEL 0172 (84) 3509

FAX 0172 (84) 3510

[illegible]



See
More

新型 共焦点レーザースキャン顕微鏡 LSM 510

コンパクトそして多機能

一点の妥協もなく

あなたが評価するのは柔軟な対応力ですか？それとも最高のテクノロジーでしょうか？

LSM510は、その全てを備えています。

革新的な最高の技術、極めて扱いやすいソフトウェアがもたらす抜群の操作性、コンパクトで交換容易なスキャンングモジュールなど。徹底した妥協を許さない物作りの精神が、ここにあります。

斬新なスキャンング手法

極めてユニークなスキャンング法を採用、スキャンングエリアの設定も自由自在。従って、思いのままの不定形のスキャンが可能です。全ての3D表示、各種測定法と相まって、試料情報を余すところなく表現します。

かつて、顕微鏡に抱かれていた様々な期待が、今ここに実現します。

新しい品質基準の画像

蛍光の4ch、同時取得、各ピンホールはコンピュータコントロールされ、2,048×2,048ピクセルの高精細スキャン、4×12bitの高分解能をはじめとして、積算、オーバーサンプリング、フォトンカウンティングなど、LSM510の諸機能は、全て研究者への奉仕にあります。



ドイツ ツァイスグループ

カールツァイス株式会社 顕微鏡部

〒160-0003 東京都新宿区本塩町22番地

☎03-3355-0332 Fax.03-3358-7554

大阪☎06-282-4322 名古屋☎052-777-1411

福岡☎092-713-7821 仙台☎022-224-5621